産地収益力向上事例集

生産性の高い農業と活力ある
農村を実現する農業農村整備

平成29年11月
北海道農政部

■産地収益力向上事例集（目次）

振興局	タイトル	関係市町村	主な作物	頁
空知				
東部耕地出張所	集中管理孔を活用した水稲直播や野菜生産の取り組み	美唄市	アスパラ、なたね	1
南部耕地出張所	若手農業者が主体となった産地強化と地域活性化	南幌町	スイートコーン	2
北部耕地出張所	ブロッコリーの生産による収益力向上の取り組み	秩父別町	ブロッコリー	3
石狩	泥炭地から食料生産基地へ	江別市・当別町・新篠津村・月形町	小麦、たまねぎ、かぼちゃ等	4
後志	畑地かんがいの活用による安定生産・収益性向上	赤井川村	ブロッコリー・花卉	5
胆振	高収益作物のブランド化と技術継承で長期安定供給	安平町	アスパラ、スイートコーン、メロン	6
日高	トマトの長期安定生産とブランド力の向上	平取町	トマト	7
渡島	「函館育ち」長ネギブランドの確立	北斗市	長ネギ	8
檜山	「アスパラガス」「バレイショ」などの収量増大と品質向上	厚沢部町	アスパラ、馬鈴薯	9
上川				
南部耕地出張所	富良野の知名度とブランド力を活かした農産物の流通	富良野市	たまねぎ等	10
南部耕地出張所	企業との業務提携による6次産業化（ポテトチップス製造）と雇用の創出	南富良野市	加工用馬鈴薯	11
中部整備室	米の輸出拡大	旭川市・鷹栖町	米（輸出）	12
北部耕地出張所	生産量日本一名寄産もち米の高品質米の安定生産による収益の向上	名寄市	もち米	13
留萌	ブランド米の輸出と6次産業化に取り組む西蝦夷の挑戦	羽幌町	米	14
宗谷	恵まれた自然を活かした「豊富ブランド」の農業の確立を目指す	豊富町	牧草、牛乳	15
オホーツク				
東部耕地出張所	大規模畑作地域における知床にんじんの生産拡大	斜里町	にんじん	16
中部耕地出張所	年間約20万トン　たまねぎ生産日本一　北見地域の取組	北見市	たまねぎ	17
西部耕地出張所	安定した水供給による畑地かんがいと基盤整備による「玉ねぎ」の安定生産	湧別町	たまねぎ	18
十勝				
南部耕地出張所	「十勝川西長いも」ブランド力の向上と輸出拡大	帯広市	長いも	19
北部耕地出張所	「日本一の豆の町」の地域ブランド「キレイマメ」による地域活性化	本別町	豆	20
東部耕地出張所	たまねぎの生産の拡大による経営の安定化	幕別町	たまねぎ	21
釧路	大規模草地型酪農地域で「摩周メロン」等の地域ブランド力向上による畑作農業の展開	弟子屈町	メロン、そば、加工用馬鈴薯	22
根室	大規模酪農地帯における生産性の向上と農業経営の安定	別海町	牧草、牛乳、チーズ	23

集中管理孔を活用した水稲直播や野菜生産の取り組み

【北海道美唄（びばいし）市】

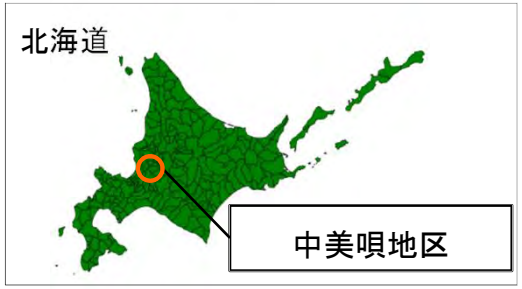
【工夫のポイント】

○　集中管理孔方式の暗渠排水により排水不良を改善し、新たな栽培形態を実現

○　加工品や輸出に向けた取り組みにより収入の向上を目指す

【取組地域の概要】

○位置
北海道　美唄市　（過疎地域）



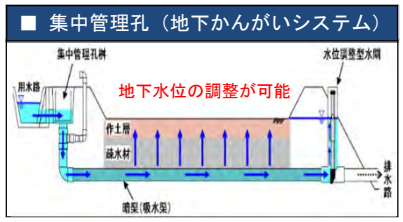
○主要作物
・アスパラガス、ハスカップ、水稲、小麦、大豆等

○主な支援施策
・道営ほ場整備事業、経営体育成基盤整備事業（S49～現在）

基盤

排水改良による栽培農産物の充実

○道営ほ場整備事業等により排水改良がされ、特に近年は集中管理孔方式の暗渠排水が整備されたことで、多様な営農が可能に



基盤整備
（S49年～現在）

【整備前】
○泥炭土壌など、排水不良の土壌が広く分布している地域であるため、湿害が発生するなど野菜や畑作物の生産に適さないほ場が広く分布

生産現場

水稲直播栽培やなたねの増加

○集中管理孔を活用した地下かんがいにより、水稲直播栽培が増加し、省力化に寄与

○暗渠排水等の排水改良により、アスパラガス等野菜の作付けが増加し収益向上

加工・流通

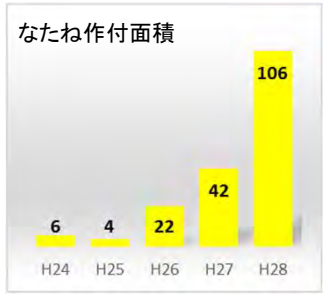
加工品の開発と販売と輸出への取り組み

○メーカーと連携してハスカップを使用したお菓子の開発と販売

○アスパラガスを海外観光物産展に出品するなど海外輸出に向けた取り組みを模索中

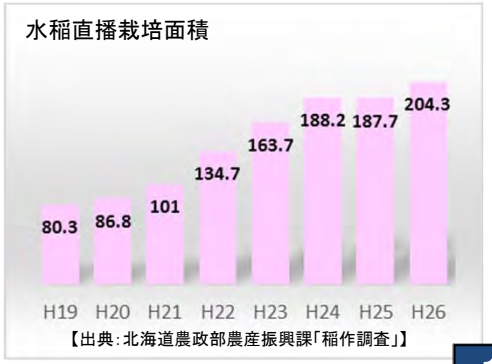
基盤整備を契機に水稲直播や多様な取り組みによる経費削減と収入増加

○水稲直播の導入により、増加する経営面積に対応するとともに、営農経費が削減された。



【出典：農林水産統計年報】

○排水改良により輪作体系になたねが加わり、経営の安定に寄与



【出典：北海道農政部農産振興課「稲作調査」】

若手農業者が主体となった産地強化と地域活性化

なんぽろちょう
【北海道南幌町】

【工夫のポイント】

○　排水改良により多種の野菜において生産が拡大、安定的な生産が可能に
○　地場産野菜を活用した多様な加工品の開発と販売
○　若手農業者の団体によるイベントの開催や、PR活動により、農産物や加工品の販売促進

【取組地域の概要】

○位置
北海道　南幌町

○主要作物
・スイートコーン、キャベツ、水稲、小麦、大豆等

○主な支援施策
・道営ほ場整備事業、経営体育成基盤整備事業（S46～現在）

基盤

排水性の改良による野菜の安定生産

○道営ほ場整備事業等により集中管理孔方式の暗渠排水整備などの排水改良がされたことで、水田の汎用化が進み野菜の安定生産が可能になった。

基盤整備
（S46年～現在）

【整備前】
○泥炭土壌など、排水不良の土壌が広く分布している地域であるため、畑作物に湿害が発生し、野菜等の高収益作物の安定生産が難しかった。

生産現場

高収益作物の生産拡大

○計画的に実施した排水改良により、キャベツの生産が拡大、その後安定化し、近年は長ねぎ、ブロッコリー、生食可能なスイートコーンであるピュアホワイトが増加

加工・流通

多様な加工品の開発と販売への取り組み

○地場産キャベツを使用したキャベツキムチが流通
○メーカーと連携してピュアホワイトを使用したスープやドレッシングの開発と販売

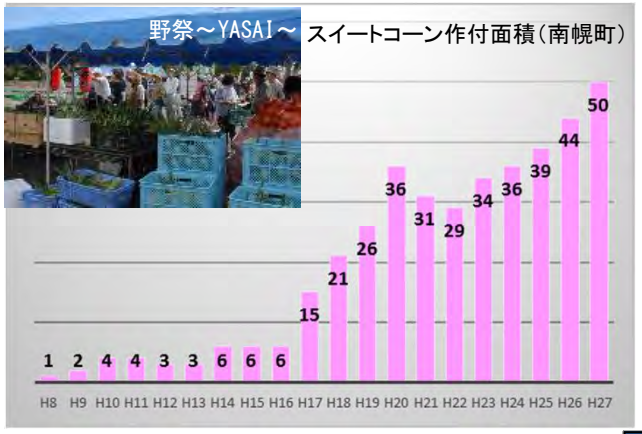
担い手

若手農業者によるイベントと販売促進

○農業法人等の担い手農家の経営が良好なため、若年層の就農が増加
○若手農業者団体によるイベントの開催や、PR活動により、農産物や加工品の販売促進

若手農業者が主体となった産地強化

○若手農業者グループ「農猿（のうえん）」がイベント「野祭～YASAI～」を開催、地元野菜の還元販売などを実施
○道内各種イベントに出向き地元野菜のPRも行い、野菜生産の拡大、産地強化に寄与
○このような取り組みにより、スイートコーンの作付面積が拡大



【出典：農林水産統計、南幌町調べ】

ブロッコリーの生産による収益力向上の取り組み

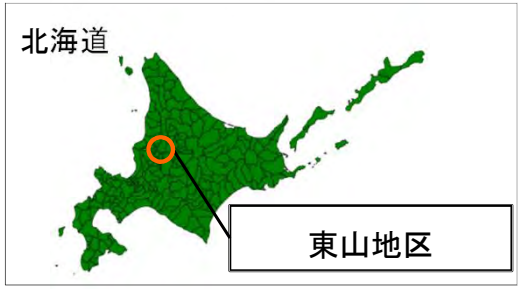
ちっぷべつちょう
【北海道秩父別町】

【工夫のポイント】

○　排水改良によりブロッコリーの生産拡大、長期間にわたって安定的に生産できるため、市場のニーズに合わせた出荷が可能。
○　品質向上により京都の料亭等、高値で安定的な取引きが可能に。
○　ブロッコリーを中心に町内の野菜を利用した加工品の開発により、更に収益力向上。

【取組地域の概要】

○位置
北海道　秩父別町　（過疎地域）



○主要作物
・ブロッコリー、水稲、小麦、そば等

○主な支援施策
・道営ほ場整備事業、経営体育成基盤整備事業（S41～H24）

基盤

排水性の改良による野菜生産の導入

○道営ほ場整備事業等により暗渠排水整備などの排水改良がされたことで、水田の汎用化が進み野菜の生産が可能になった。

暗渠排水

ブロッコリーの栽培

基盤整備
（S41年～H24年）

【整備前】
○泥炭土壌や粘性土など、排水不良の土壌が広く分布している地域で排水改良が課題となっていた。
このため、水稲単作経営が行われ、米価下落とともに経営状況の悪化が課題となっていた

滞水状況

生産現場

ブロッコリーの生産による収益力向上

○特に昭和59年度～平成8年度に集中的に実施した排水改良により、ブロッコリーの生産が拡大、安定化
○順次作付けし、6月から10月まで、実需に合わせて出荷、差別化し、京都の料亭等に販路確保

ブロッコリー

加工・流通

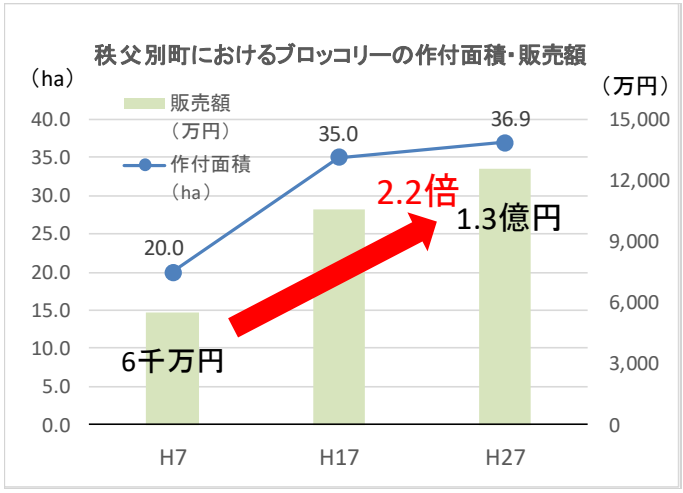
多様な加工品の開発と販売への取り組み

○地場産ブロッコリー・小麦・米を練り込んだ平麺生パスタ、特産トマトジュースをベースに作った濃厚ソースにブロッコリーをトッピングした緑のナポリタンが好評
○他に緑のラングドシャなどブロッコリー加工品を開発

緑のナポリタン

地域ブランドの確立による販売額の安定化

○排水改良等の土地改良事業により、野菜等の畑作物の作付可能なほ場が増加
○特にブロッコリーは、ＪＡきたいぶき出荷施設で特秀、秀、優に区分しブランドを確立



【出典：秩父別町調べ】

泥炭地から食料生産基地へ　【北海道篠津地域（江別市・当別町・新篠津村・月形町）】

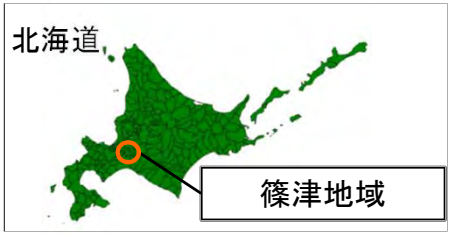
えべつし・とうべつちょう・しんしのつむら・つきがたちょう

【工夫のポイント】

○泥炭地を克服し、水田の汎用化を目的に土地改良事業を実施。用排水施設整備・客土により、水田単作地帯から畑作物の導入・食料生産基地へ。
○多様な作物の生産の拡大により加工・販売も促進
○経営の安定化により、新規就農者による営農の開始（過去10年間で31人の新規就農）

【取組地域の概要】

○位置
北海道　江別市・当別町・新篠津村・月形町（山村振興・豪雪地帯対策特別、等）



○主要作物
・水稲・小麦・たまねぎ・かぼちゃ等
○主な支援施策
・国営かんがい事業
（S26～S46、S60～H29）
・道営経営体育成基盤整備事業
（H15～）
・ふれあいファーム建設事業（H28）
ほか

基盤

泥炭地帯から有数の食料生産地へ

用、排水両方の機能を備える篠津運河を整備し、それに併せて、不毛の地と言われた泥炭農地に良質土を投入（客土）することで、大規模食料生産地基地に。

基盤整備
（S26年～）

【整備前】
○泥炭地帯のため畑作物生産に不向きで、水稲生産が中心。
○泥炭特有のほ場の作土不足や施設の沈下にともなう用・排水の能力不足により、営農作業に苦慮。

生産現場

ほ場の大区画化・汎用化による新技術

○ 地下かんがい・直播栽培の導入
研修会の開催
○ スマート農業の推進
GPS農業研究会による研修の開催
○ クリーン農業の推進
新篠津村クリーン農業協議会の設立

加工・流通

6次産業化・農商工連携・直売所の取り組み

○ 6次産業化
米・黒豆の加工品
有機野菜使用ラスク
○ 農商工連携
スイーツ・ドレッシング・パンなど商品開発
○ 直売所
当別町：軽トラマーケット
新篠津村「産直市場」
江別市「ふれあいファームしのつ」

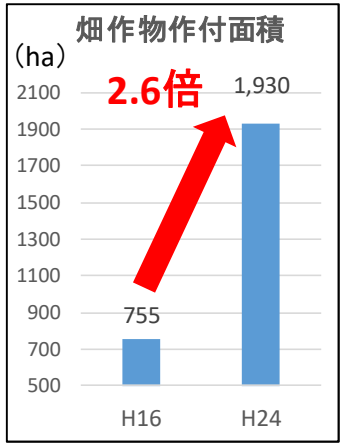
担い手

新規就農者確保・支援の取り組み

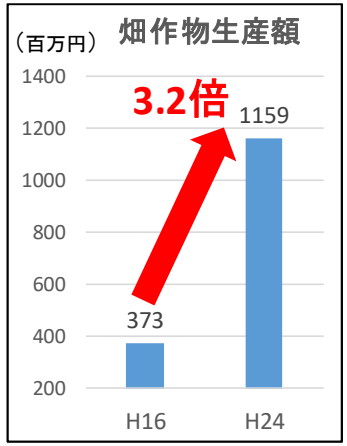
○ 新規就農者育成・確保　「新米塾」～「農業塾」の開講
○ 農業体験　道内外の学生受け入れ、体験験学習を実施。

水田汎用化により畑作物の生産拡大

○ 基盤整備を契機として、水田汎用化が促進し、水田単作経営から野菜などを取り入れた複合経営に転換。
○ 畑作物の作付け面積、生産額が大幅に増加。



出典：農林水産省



出典：農林水産省

畑地かんがいの活用による安定生産・収益性向上

【北海道赤井川村（あかいがわむら）】

【工夫のポイント】

○ 畑地かんがい施設の整備により、ブロッコリー、ミニトマト、カラーピーマン、花卉等の高収益作物の作付けが拡大。

○ 高品質で安定的な作物生産が可能になり、面積当たりの農業所得が向上。

○ 都市圏に隣接する立地を活かし、道の駅直売所等での販売により、消費者との交流を促進。農業後継者や新規就農者の定着に寄与し、地域が活性化。

【取組地域の概要】

○ 位置
北海道　赤井川村（過疎、特定農山村、振興山村）

○ 主要作物
- 水稲、馬鈴薯、南瓜、スイートコーン、ブロッコリー、グリーンアスパラガス、ミニトマト、カラーピーマン、花卉 等

○ 主な支援施策
- 国営かんがい排水事業（H1～H16）
- 道営畑地帯総合整備事業（H1～H17）
- 多面的機能支払交付金（H19～）
- 新規就農者育成支援特別措置（H8～）

基盤

高収益作物の拡大と安定生産

かんがい施設の整備により、かん水労力が大幅に軽減され、高収益作物の生産が拡大するとともに、農作物の品質・収量の向上が図られた。
また、暗渠排水により、降雨後も適期に作業が行え、作業効率が向上した。

基盤整備
（H1年～H17年）

【整備前】
内陸性気候により野菜・畑作物生産に適しているが、保水性の乏しい粘土質土壌が広く分布している上、かんがい期間（５～９月）の降水量が少ないため収量や品質が安定せず、また、沢水やため池からの用水汲上げ・運搬にも多大な労力を要し、生産性・収益性に課題があった。

生産現場

高品質な作物栽培と生産の効率化

○ 干ばつ時にはリールマシンがフル稼働し、露地作物でも平年並に収量と品質を確保。

○ 安定した水供給により、施設栽培の野菜や花卉生産が増加。

加工・流通

地域特性を活かした販売体制・貯蔵

○ 高品質で安定的な作物生産が可能になり、直接取引・契約栽培や道の駅での直売等、多様な販売を実現。

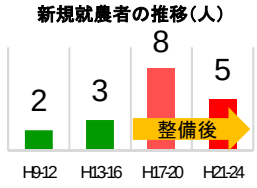
○ 一部の農業者は、豊富な雪を活用し、雪氷室で野菜を貯蔵。

担い手

基盤整備を契機に担い手確保へ

○ かんがい施設整備後は、施設栽培を中心に村の支援を受けた新規就農者が増加。また、農業後継者のUターンも見られ、担い手確保に寄与。

新規就農者の推移（人）

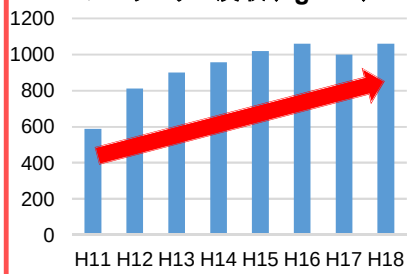


高収益作物の安定生産による所得向上

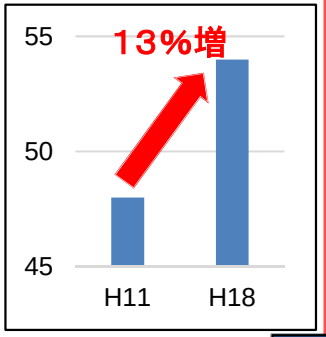
○ かん水作業の省力化と作業性の向上により、天候に大きく左右されず、高品質で安定的な作物生産が可能となった。

○ ブロッコリー、ミニトマト、カラーピーマンや花卉（トルコギキョウ）等の高収益作物の栽培割合を増加させ、面積当たりの農業所得が向上。
また、道の駅直売所等での販売を通じ、都市住民との交流が進んでいる。

ブロッコリー反収（kg/10a）



面積当たり生産農業所得（千円/10a）



【出典：農林水産統計】

高収益作物のブランド化と技術継承で長期安定供給

【北海道勇払郡安平町（あびらちょう）】

【工夫のポイント】

○畑かん用水の整備普及により、かんがい用水の安定を図るなど収益性の高い作物の生産を拡大。
○担い手対策として実践農場を整備するなどし、新規就農者とアサヒメロン就農研修生の受入れを支援。
○地区の高収益作物
メロン、スイートコーン、小豆、アスパラ

【取組地域の概要】

○位置
北海道　安平町（あびらちょう）　（過疎地域）

○主要作物
・小麦、甜菜、大豆、小豆、スイートコーン、
アスパラ、メロン等
○主な支援施策
・国営かんがい排水事業(H2～H27)
・道営畑地帯総合整備事業(H27～)
・畑地かんがい施設の支線用水路まで、事業費の地元負担を安平町が独自負担

基盤

畑かん用水の整備普及による安定生産

○基盤整備後は、土地生産性の向上や水管理の合理化、農作業の効率化が図られ、気象変動に左右されず高品質、安定生産が可能になった。

基盤整備
（27年～32年）

【整備前】
○地域ブランド「アサヒメロン」などの高収益作物や水稲・畑作を組み合わせた複合経営が行われている。
しかし、かんがい施設が未整備であり降雨に依存した営農のため、収量や品質の安定が課題であった。

生産現場

高品質・安定生産でブランド力を向上

○畑かん施設の普及により、アサヒメロンやアスパラ、スイートコーン等高収益作物の品質が向上し、安定生産が可能になった。
○アサヒメロンは糖度が14度以上と高く、H29年の初競りは1箱（5玉）15万円で落札。市場価格は高値安定。

加工・流通

安全・安心な食の生産

○ＪＡはインターネット販売（北の豊穣便）により、全国へ販売。直販により収益向上。
○H31道の駅あびら（仮称）の整備に併せ地域農産物を活用した新たな特産品を観光協会と町が連携し開発支援。

担い手

新規就農支援及び技術継承

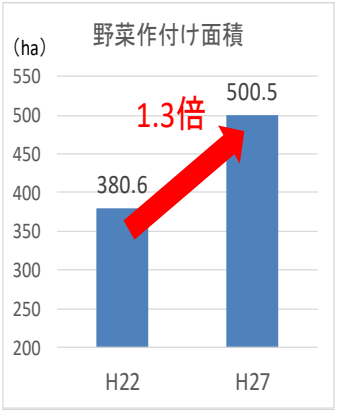
○安平町農業担い手育成協議会を設置し、新規就農者とアサヒメロン就農研修生の受け入れを支援。
○研修生用にアサヒメロンの実践農場を整備し、育苗から出荷までを実践的に研修。

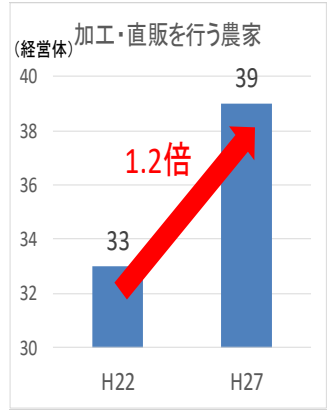
基盤整備により高収益作物の普及拡大

○基盤整備により作物の選択が可能になり高収益作物の導入が促進。

○町は、振興作物であるアサヒメロンの継承事業として実践農場を開設するなど担い手を支援。

○農産物の加工や直販を行う生産者も増加。





出典）農林業センサス

トマトの長期安定生産とブランド力の向上

びらとりちょう
【北海道平取町】

【工夫のポイント】

◯転作定着化を目指し、**トマトのハウス栽培**を積極的に導入

◯基盤整備による**維持管理省力化**でトマト作付面積が増加

◯トマトで確立した**ブランド名を地域内で生産される他の農産物に拡大**し、さらに収益力を向上

【取組地域の概要】

〇位置
北海道　平取町　（過疎地域等）

〇主要作物
・水稲、トマト、キュウリ　等

〇主な支援施策
・道営ほ場整備事業（S48～S57）
・道営農地整備事業（中山間）（H24～H32）
・農山漁村活性化プロジェクト支援交付金（H24～H26）
・産地パワーアップ事業（H28）
・中山間地域等直接支払交付金（H12～）

基盤

トマトの効率的な生産と規模拡大

道営事業により、区画整理、暗渠排水、農業用用排水施設等を整備し、省力化や排水性改善が図られ水稲とトマトの複合経営が容易となった。
また、近隣畜産地帯の堆肥と稲わらを交換する耕畜連携を実践し、土づくりによる生産拡大に寄与。

基盤整備
（S48年～S57年）
（H24年～H32年）

【整備前】

河川沿いの沖積地帯で腐植が少なく排水性に劣る土壌が分布。

昭和40年代より水稲の転作としてトマト栽培にいち早く取り組み、トマト出荷量は全道一となったが、水稲との複合経営が多く、用排水管理への多大な労働力投入、農地の排水性改善が課題であった。

生産現場

半促成栽培、クリーン農業の実践

◯トマトの加温半促成栽培・夏秋どり栽培により、長期間の収穫時期を確保。
◯緑肥や堆肥投入による土づくりを実践することで、クリーン農業の認証を獲得。

加工・流通

効率的な集出荷施設、規格外の活用

◯高度な選果システムを導入し、販売単価を底上げ。
◯規格外をトマトジュースなどに加工し、付加価値を向上。
◯出荷量の４割を関東市場へ。

担い手

農業支援センターによる担い手対策

◯新規参入希望者へトマト栽培研修を集中的に行い、毎年1戸以上が就農。

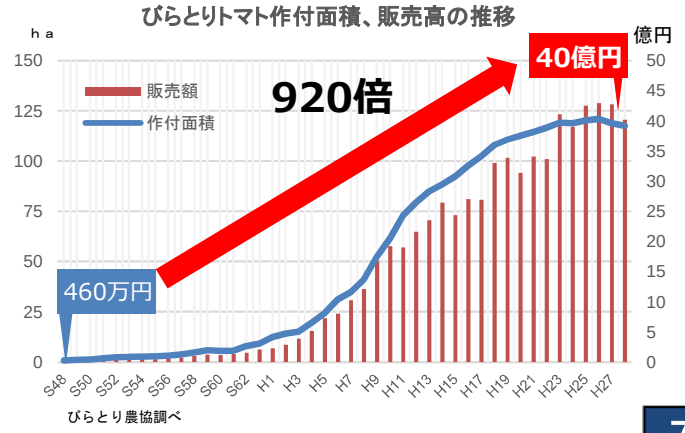
◯栽培マニュアルと選果データに基づく生産指導で、栽培技術向上を支援。

ブランド力の向上よるトマト販売額の増加

〇水田の転作としてトマトを導入、ほ場整備事業等の実施によりトマト作付面積が増加、販売額も年々増加。

〇トマトの規格外をジュースなどに加工、販売し、付加価値及び所得額の向上を図る。

〇トマトで確立したブランドをキュウリ、かぼちゃなど他の農産物に拡大し、収益力の向上を目指す。



「函館育ち」長ネギブランドの確立

【北海道北斗市（ほくとし）、七飯町（ななえちょう）】

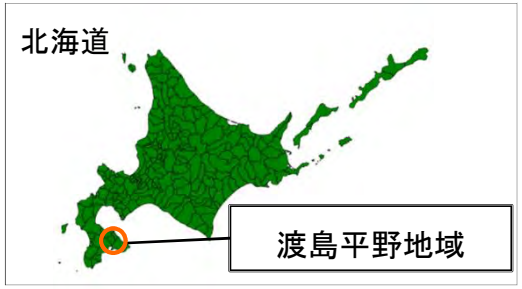
【工夫のポイント】

○ 水稲栽培をはじめとして、温暖な気候を活かした野菜・花卉・果樹・畑作物などの生産が盛んな地域。

○ 農地整備事業による大区画化で営農の効率化が図られ、余剰労力により施設・露地野菜等の高収益作物の栽培を積極的に行う地域。

【取組地域の概要】

○位置
北海道　北斗市、七飯町



○主要作物
・米、大豆、長ネギ、トマト、ほうれん草等

○主な支援施策
・国営農業用水再編対策事業（H18～H28）
・農地整備事業(経営体育成型)（H6～H31）
・農業基盤整備促進事業（H24）

基盤

大区画化による農作業の合理化・効率化

農地整備事業による大区画化（整備前28a→整備後90a）で、農作業の合理化・効率化が図られ、収益性の高い施設・露地野菜等への作業労力投下が可能。また、排水整備により収量・品質も向上。

基盤整備
（H6年～H31年）

【整備前】
地域では昭和50年代後半から、稲作との複合経営として、高い収益性が見込める長ネギを導入。
しかし、ほ場は未整備で不整形。用排水路や耕作道も未整備で農作業効率が悪く、規模拡大、高収益作物の導入に支障となっていた。

○白川地区整備前

○白川地区整備後

生産現場

「函館育ち」ブランド化

○ 高収益の転作作物として長ネギを栽培。
出荷は「函館育ち」ブランドで統一され、道内トップクラスの産地を形成。
○ 道南特有の温暖な土地柄を活かし、夏は６月からハウス栽培の出荷がはじまり、露地は１２月の遅い降雪期まで長期出荷が可能。
○ 長ネギ輪作体系支援のための土づくりを支援。

函館育ち HOKKAIDO

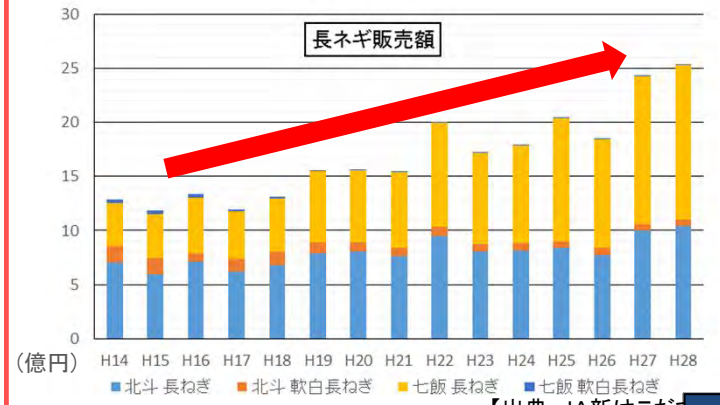
加工・流通

農産物直売所を活用した取組

○ 農産物直売所JA新はこだてファーマーズマーケット「あぐりへい屋」を活用した「函館育ち」ブランドをPR。年間約8万人の来店者（販売客数）があり、旬の野菜、
果物類、お米や加工品の販売額は年々伸びている。

ブランド力の向上と販売額の増加

○ ＪＡ新はこだて北斗、七飯地域の長ネギの生産数量・販売額は増加しており、収量、品質向上に一定の効果。
○ 夏期の冷涼な気象条件を活かし、本州の端境期である夏場の供給産地になっている。
○ 作付面積は200ha前後と横ばい傾向であるので、作付面積増加のためには、今後も農業農村整備等によるほ場条件の改善は必要。



【出典：JA新はこだて

「アスパラガス」「バレイショ」などの収量増大と品質向上

【北海道厚沢部町（あっさぶちょう）】

【工夫のポイント】

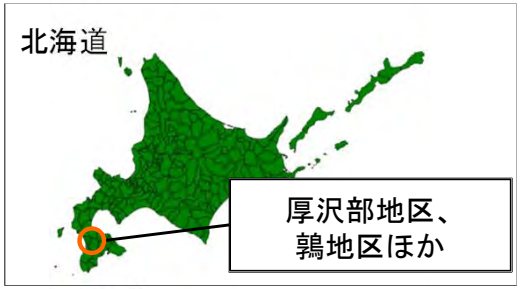
○畑地かんがい施設整備やほ場整備によりアスパラなどの施設野菜やバレイショなどの露地野菜を組入れた新たな営農体系の構築。

○アスパラについて、通常より収穫期間が長い立茎栽培を導入し、収量増大を図り、市場や消費者ニーズに応じた出荷を実現。

【取組地域の概要】

○位置

北海道　厚沢部町（山村振興）



○主要作物

・アスパラガス、バレイショ（メークイン）、キャベツ、豆類、小麦等

○主な支援施策

・国営かんがい排水事業（S45~H13）
・道営畑地帯総合整備事業（H3~H7）
・道営農地保全整備事業（H9~H14）
・道営畑地帯総合整備事業（H15~H19）
・道営中山間地域整備事業（H20~H29）

基盤

アスパラやバレイショの生産向上と品質確保

かんがい施設の整備により、アスパラやバレイショ、キャベツなどの露地栽培作物の生育改善、収量増大、規格・品質が向上した。

また、排水改良や除礫などの整備により、営農労力が削減され施設野菜と露地野菜を組み入れた新らたな営農体系に取り組んでいる。

基盤整備

（S45年～H29年）

【整備前】

本地域は安定した水源をもたないため、用水確保が課題となっていた。

また、排水不良農地や礫質土が広く分布しており、営農作業の支障となっていた。

生産現場

アスパラの立茎栽培による収益力向上

○畑かん施設の整備により収量増大と品質向上目指している。

○収益性の高い農業経営を目指し「檜山南部立茎アスパラ生産組合」を設立。

○通常栽培より収穫量が増加。

加工・流通

市場および消費者ニーズに応える供給体制

○鮮度の確保や荷痛み防止のため、農道整備も推進。アスパラを早期に市場へ配送。

○アスパラやバレイショは、安全・安心・高品質の「函館育ち」としてブランド化し、道内のほか、関東、東海、関西方面に出荷。

担い手

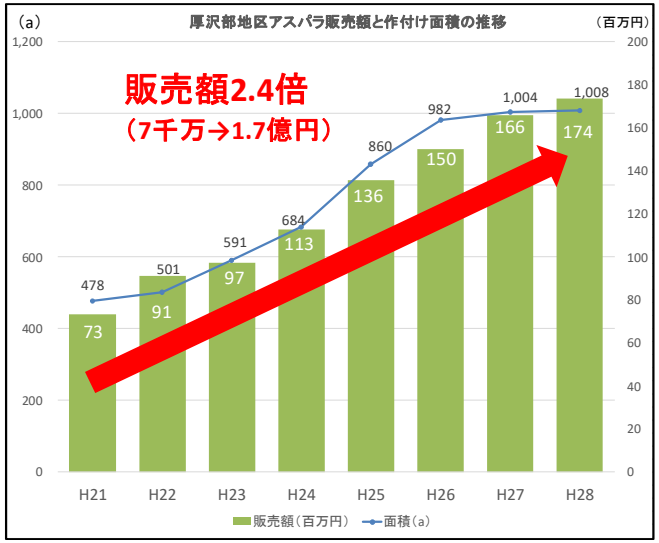
世界一素敵な過疎のまちづくり

○新規就農者育成のため、H15年に条例を制定。新規就農者支援を積極的に実施。

○世界一素敵な過疎のまちづくりを進めており、毎年２～３名新規就農。

アスパラガスのブランド力向上と販売額の増加

○畑地かんがい施設整備とハウス栽培の積極的な導入により、アスパラガスの収量や品質向上が図られ、ブランド力が向上。生産量と販売額が大きく増加している。



出典：JA新はこだて

富良野の知名度とブランド力を活かした農産物の流通

【北海道富良野市（ふらのし）】

【工夫のポイント】

○特別栽培等の面積を拡大し、安全で安心な農作物へのニーズに応えるための付加価値化を推進。
○市の中心に富良野ブランドを販売する施設を開設したことにより、地元農産物や加工品の販売拡大を促進。
○品質の高さや知名度を生かし、台湾や韓国などへの海外販路創造

【取組地域の概要】

○位置
北海道　富良野市（過疎、山村、特豪）

○主要作物
・水稲、玉ねぎ、メロン、小麦、大豆、人参、馬鈴薯

○主な支援施策
・国営かん排事業（S40～S54）
・道営畑地帯総合整備事業　（S51～）
・戦略的中心市街地商業等活性化支援事業（H21）

基盤

暗渠排水や窪地修正施工による農産物の安定生産

○区画整理や暗渠排水の施工により、湛水及び湿害が解消され、玉ねぎや人参等の湿害に弱い作物の輪作を行えるようになり、品質及び生産性の安定が実現。

基盤整備
（昭和51年～）

【整備前】
○粘土質や泥炭土壌のため、農地の排水不良による湛水被害が発生し、農産物の生産量や品質が不安定であった

生産現場

安全で安心な農作物の生産

○Yes! clean 米の栽培推進
○特別栽培農産物の基準に基づいた栽培の推進
（玉ねぎ・人参・馬鈴薯等）
○JAふらのによる持続的農業を目指したECOフードの取組

加工・流通

富良野の知名度を活かした販路の拡大

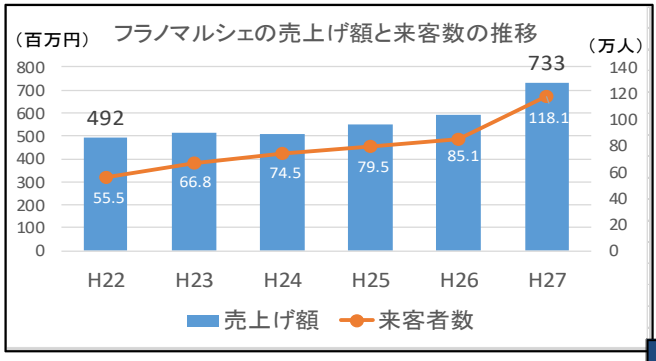
○富良野地域の豊富な農作物を利用した富良野ブランド商品の開発
○フラノマルシェを活用した市民、観光客への販路拡大
（富良野地域の農産物の直売及び地方発送）
○海外市場への販路創造により、台湾、韓国へたまねぎの輸出

食の魅力を発信する複合施設に直売所を開設したことによる販売額の増加

○富良野市の中心に地元産野菜や富良野ブランドの加工食品を販売する「フラノマルシェ」を創設。

・フラノマルシェ

・フラノマルシェ内直売所



企業との業務提携による6次産業化（ポテトチップス製造）と雇用の創出

【北海道南富良野町（みなみふらのちょう）】

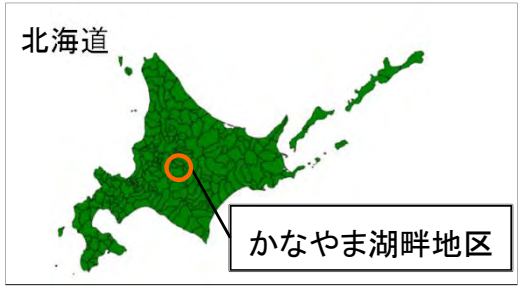
【工夫のポイント】

○ＪＡが地域の主要作物である馬鈴薯の加工施設を設立し、地元生産物を加工することで、高収益作物（加工用馬鈴薯）の生産拡大に貢献。
※作付け面積180→300ha

○人口2,600人の南富良野町に年間120人の安定した雇用の場を創出。

【取組地域の概要】

○位置
北海道　南富良野町
（過疎、辺地、山村、特豪）



○主要作物
小麦、にんじん、馬鈴薯、スイートコーン等

○主な支援施策
中山間総合整備事業(H12～)
農村総合整備事業(H1～H11)
農山漁村活性化プロジェクト支援交付金(H20～H23)

基盤

基盤整備により高品質な馬鈴薯の安定生産

○暗渠排水、客土、除礫の施工により、湿害解消、耕土の確保、労働力の軽減がなされ、作物の輪作が行えるようなり、品質及び生産性の向上が実現。

コントラによる収穫受託

加工用馬鈴薯

基盤整備
（H12年～）

【整備前】
○ポテトチップス工場の建設に伴い加工用馬鈴薯の生産拡大が必要であったが、排水不良や石が多い等生産に適さない農地があった。

湿害状況

石レキ状況

生産現場

JAによる営農支援

○ＪＡふらのがコントラクターを組織し、馬鈴薯の作業機械が無い農家に対し、機械・労働の一部を行うことで、馬鈴薯の生産面積の拡大。

加工・流通

JAブランドの商品の開発と販路拡大

○ＪＡふらのは、農家所得向上のためポテトチップス工場を建設。高収益な加工用馬鈴薯の需要が増加。

○ＪＡふらのは、㈱湖池屋とポテトチップス製造技術について業務提携。技術提供・製造委託を受ける。

○工場設立を契機にＪＡふらのブランド商品である「ふらのっち」を開発。

地域雇用

通年雇用で地域経済活性化

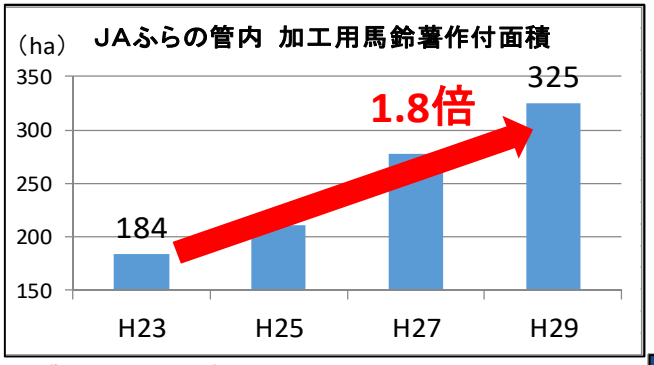
○工場従業員は約120名。半分は地元の南富良野町。地域の冬期の雇用にも大きく貢献。

芋切り作業

6次産業化による収益向上の実現

○南富良野町にポテトチップス工場の「シレラ富良野」を設立。生産した商品を販売することで、６次産業化を実現。

○ＪＡふらのとポテトチップ大手の湖池屋が業務提携を行い、湖池屋ブランドのポテトチップを製造することにより、一年を通して工場の稼働可能となり、南富良野町に１２０人の雇用を創出。



出典：ＪＡふらの聞き取り

米の輸出拡大

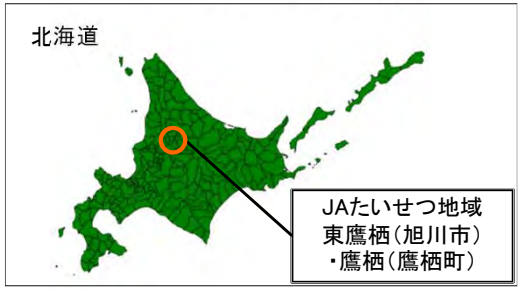
【北海道旭川市・鷹栖町】

【工夫のポイント】

○　ほ場の大区画化による事業効果の発現（営農効率の向上・競争力の強化）を契機として、海外への販路拡大の機運が高まった。
○　当地域が誇る高品質の米を積極的に売り込む「国内販売の延長としての海外市場」という攻めの姿勢で取引を行っている。
○　輸出拡大の取組により、産地生き残り・地域の持続的発展を図る。

【取組地域の概要】

○位置
北海道旭川市・鷹栖町（過疎地域）



○主要作物
水稲　小麦　大豆　牧草
○主な支援施策
経営体育成基盤整備事業　（H13～）
地域水田農業支援緊急整備事業
（H16～21）
農業競争力強化基盤整備事業
（H25～）
中山間地域等直接支払交付金
（H13～）

基盤

区画整理によるほ場の大区画化

○ほ場の大区画化により労力が軽減、品質が均質化。また、担い手農家への農地集積を促進し、農業経営の安定化に寄与。

特A米「ゆめぴりか」

基盤整備
（H13～）

【整備前】
○農家戸数の減少と高齢化のため、担い手への農地集積が急務であったが、小区画ほ場のため停滞していた。

生産現場

施設調整米で通年安定供給、ブランド力の強化

○基盤整備に加え、広域施設「上川ライスターミナル」に集荷、鮮度を保持することで一年中良食味米を安定供給し地域のブランド力が向上。
○米販売額が増加傾向で、米の売込みに対する意欲も上昇。

加工・流通

海外市場の開拓・輸出企業との連携

○特A米「ゆめぴりか」を使用した、お米ジェラート「愛すご飯」をJAが開発、「一村逸品大賞」金賞を受賞。
○JAは、米の販路拡大を目指し、輸出事業に取り組み。貿易会社と連携し、香港・シンガポール・台湾・ハワイに輸出。
○玄米で輸出し、各地の現地法人により精米することで、米の鮮度・品質を保持。

担い手

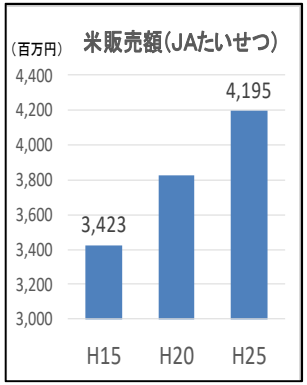
生産者と消費者を結ぶ観光スポットの創造

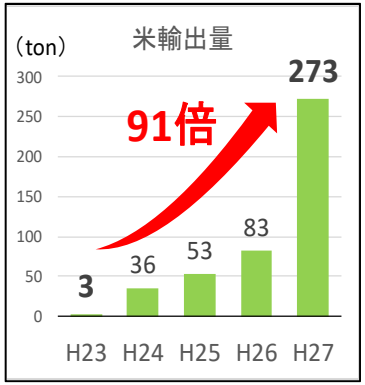
○消費者に農業・農村地域に関心を持ってもらうイベントとして、JA青年部を中心とした「田んぼアート」の取組を行っている。

米輸出量の飛躍的な増加

○H24から「ななつぼし」を中心としたアジア圏での販売に始まり、H27はハワイ進出により飛躍的な輸出増が実現。

○アジア圏の中間層をターゲットにした「きらら３９７」の取扱いも始まっており、今後は新たな海外市場への販路拡大を目指す。





出典）JAたいせつ聞き取り